

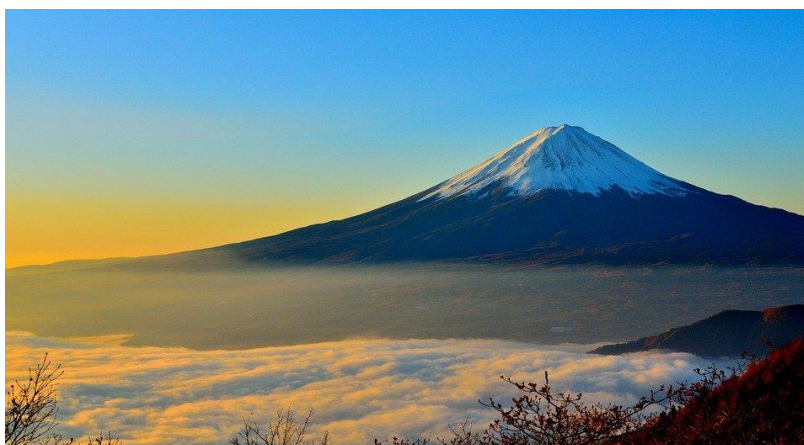
BASEL



- 発行責任者: 横浜市障がい者スポーツ指導者協議会
- 編集責任者: 広報担当理事
- 連絡先 : 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
[事務局] 横浜ラポール スポーツ課内

Fax 045(475)2053

<http://basel-y.sakura.ne.jp>



会長挨拶

横浜市障がい者スポーツ指導者協議会
会長 岩澤 英喜

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大のなか「オリンピック・パラリンピック東京大会」が開催されました。多くの方が選手の活躍に胸を熱くしたことと思います。

本年は、こうしたパラスポーツに対する追い風をいかに継続させていくかが課題となります。新型コロナウイルスの影響はまだまだ混沌としておりますが、開催された「オリンピック・パラリンピック東京大会」の経験とノウハウを活かしていけるかがパラスポーツ普及・発展の鍵になると思います。会員のみなさまのなかには「オリンピック・パラリンピック東京大会」にスタッフやボランティアとして参加された方も多数いると聞いております。ぜひ、その経験を当会の活動に活かしてパラスポーツ普及・発展に寄与していただければと思います。みなさまにおかれましては、まだまだ厳しい状況のなかでの活動となりますが、お身体に気をつけてお過ごしください。

当会は、文部科学大臣より「令和3年度生涯スポーツ優良団体表彰」という栄誉を受けることができました。これもひとえにみなさまの日ごろの活動の賜物です。心より感謝申し上げます。

令和3年度障がい者スポーツ関東ブロック連絡協議会 報告

会長 岩澤 英喜

令和3年11月9日(火)さいたま市浦和コミュニティセンターで行われた、関東ブロック連絡協議会に参加してまいりましたので報告します。

令和2年度はオンライン形式でしたが、本年度は集合形式で行われ、関東各都県市の行政・障がい者スポーツ協会・障がい者スポーツ指導者協議会の代表約 70 名が情報交換を行いました。横浜市からは、横浜市健康福祉局障害自立支援課宮嶋美穂氏、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール寺川幸一指導員と岩澤が参加しました。

主な内容を下記に記します。

- ・「日本障がい者スポーツ協会」が「日本パラスポーツ協会」に名称を変更したことに伴い、協議会名や資格の名称も変更していくことになる。
- ・今後は各地の障がい者スポーツセンターと連携を強めていく。
- ・パラスポーツの普及を進めていくために関係団体にコーディネーターの設置を促していく。
- ・各都県市行政のパラスポーツ担当部署が福祉部門からスポーツ部門に移行しているなかでの課題や問題点を確認した。
- ・その中で横浜市が担当部署と他部署との話し合いを定期的に行っていることが評価された。
- ・各地・競技団体のコロナ対策の確認。
- ・来年度は千葉県で行われる予定。

研修会報告

開催日時2021年11月6日(土)13時～15時

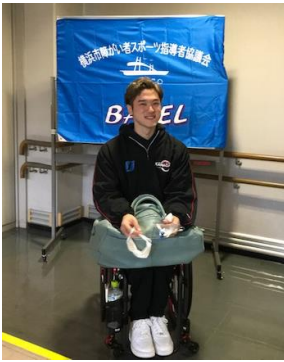
研修担当 後藤 貴久

新型コロナウイルス感染症に関する話題が尽きることのない中で、久しぶりの集合形態での研修が実施できました。今回の研修では、会場は通常の半分の人数までとし、万全な感染症対策を行い実施しました。幸い、その後体調が悪くなったとの報告は受けておりませんので、当日まで開催できるか不安が残る中、無事実施できたことは担当として良かったです。ご協力ありがとうございました。

今回のテーマは「東京 2020 パラリンピック報告」として、車いすバスケットボールの古澤拓也選手、当協議会の宮城信隆氏、松川文博氏の3名より、様々な立場から報告をしていただきました。

古澤選手からは、パラリンピック出場までの経緯や今後に向けての話、宮城氏からは、パラトライアスロンやセレモニーキャストとして開会式・閉会式に参加した話、松川氏からは、ボート競技の話があり、限られた時間の中でたくさんのお話がありました。3名とも、テレビで見ているだけではわからない裏の部分も含めて非常に興味深い話をいただき、運営側も楽しく参加させていただきました。質問もたくさんあり、研修後のアンケートでいただいた古澤選手への質問についてこの場でお答えいたします。





Q:車いすテニスの経験や車いすバスケットを通じて、古澤選手が得た事は日常生活にどのように活かしているか。

A:ポジティブに考える思考や、選択をする際に楽しい(成長に繋がる)ことを選ぶことが出来るようになった。

Q:車いすバスケットの選手となって良かったと思うことは何ですか。

A:多くの人と出会うことができること、自分の可能性が広がったことが良かったことです。

アンケートは非常に好評でしたが、もっと話を聞きたかったなど改善すべき点もあります。今回、申込方法をメールのみとしましたが、賛否両論いただいております。この状況下で充実した研修が実施できるよう、今後も研修会を計画していきます。

2020 オリンピック・パラリンピック東京大会活動報告

横浜ラポールスポーツ課 宮地 秀行

今回は、カメラマンとして12日間のパラリンピック取材しました。特に重度障害者の活躍をテーマに臨みましたが、この舞台に立つ選手からはそもそも“障害”を感じることはありませんでした。それは、返って私たちの日常に、まだまだ“社会的障壁”が存在することを思い知らされる体験でもありました。

東京大会の開催によって競技としてのパラスポーツは一層の発展が期待されますが、その一方で、既存の方法では参加が難しい人たちにこそスポーツの楽しさを伝え、身近に楽しめる環境を整備することが大切だと強く感じました。私たちラポールは、その実践こそが使命だと考えています。



フォトグラファー 佐山 篤

一年の延期を経て今夏開催された東京パラリンピック。フォトグラファーとして、開会式と18の競技を撮影しました。残念ながら無観客での開催となりましたが、多くの人たちが、テレビ観戦を通じて、アスリートたちが躍動するパラリンピックという舞台を大いに楽しむことができたのではないかと思います。そして、パラリンピックを初めて見たことで、新しい世界に出会った人は多かったのではないのでしょうか。障がいを抱えた世界中のアスリートたちがスポーツに取り組む姿を見て、感じたこと、思ったこと。それがきっかけとなり、ひとり一人の気づきが広がり、違いがあってもお互いを認め合い、みんなのチャレンジをみんなが支え合う社会に変わっていく。スポーツから始まる変化。このことこそが、パラリンピックの意義だと思います。



人々の関心をここで終わらせたくはありません。パラリンピックを見た大人たち、子どもたち、パラリンピックを支えた関係者、ボランティア、企業、行政、すべての人たちがパラリンピックを経験して感じたこと、思った事を忘れることなく、意識して行動を続けていくことで、多様性豊かな共生社会の実現につながると思います。

私は東京 2020 オリパラで各種のボランティア活動を行いました。オリンピック開会式、閉会式では選手を『おもてなし』するセレモニーキャスト(アシスタントキャスト)を多数の応募の中から抽選で選ばれ、式典では選手を競技場へ迎え入れました。数回国立競技場へ足を運びセッション毎、全体通してのリハーサルを行い、終了時間は最終電車時刻まで行っていました。

式典当日も選手とのコミュニケーションも取れたりして有意義な時間を共有しました。閉会式では『ARIGATO』を選手に贈りました。

フィールドキャストではパラトライアスロン競技を行い、集合時間が午前3時のため終電で現地入りしました。競技が早朝のため仕方ないですね。

パラリンピックではパラトライアスロン競技 SEA(スイムイグジットアシスタント⇔選手を海から引き上げる介助役)を担当しました。日本の SEA は世界でも評判が高く、選手にも安心して競技に集中できる、と言われていいます。大会のテレビ放送では 4 大会オリンピックトライアスロンに出場している田山さんから、僕の名前で SEA の役割を伝えていただきました。またパラトライアスロンでは史上初のメダルを 2 個獲得！ボランティアに携わっている者としてはとても嬉しい大会でした。

2024年パリでオリパラが開催予定ですが、どんな形でも良いので大会に参加できるよう、これからも色々な活動を継続していきたいと思っています。



2020 東京パラリンピック大会パラローイングのスーパーバイザーとして組織委員会に参加しました。

役割としては、

- ・パラリンピックボート競技会のすべての局面につき、各マネージャーへ技術的なアドバイスおよび後方支援を行う。
- ・会場でのクラス分けにつき、主任クラスファイアの管理上および運用上のサポートを行う。
- ・各国のパラローイングチームメンバーの調整と管理を行う。

具体的には、会場全体の障がい者対応状況の確認として、各施設への通路及び出入り口への施設内アクセス確認、施設内のアクセス確保及び設備の確認を行いました。

クラシフィケーションエリアの設置、室内レイアウト及び設備の配置を行いました。

ボランティアへのパラローイングの説明会では、スポーツマネージャーの英語による説明に対応して日本語での説明を行いました。大会期間中は、コロナ対策として毎日決められた宿舎と会場との往復のみで、朝最初の仕事は、PCR検査用の唾液採取でした。2~3日毎に同じ弁当が支給されていましたが今となっては懐かしい気がします。ボランティアの皆さんの積極的な力が大会を成功へと導いたと思います。今後も今回の経験を活かした、パラローイング大会の開催に尽力できたらと思っています。



2020 東京パラリンピックフィールドキャストに参加して無観客規制が敷かれる中、東京お台場を舞台にしてパラトライアスロン大会が8月28日と29日に開催された。

当方はボランティアとして運営協力したが、頂いた役目は「スペシフィックオペレーションチームリーダー」。なんのこっちゃと思っていたら、「何かあったら対応する部隊」とのことであった。大会期間中は、緊張感を保ちながらも選手の息遣いが感じられる至近距離で監視業務に当たった。公園から一般公道に出るスロープのちょっとした段差で海外選手のハンドサイクルが底擦りするなど、パラ選手目線での再確認が求められることを知った。

上肢障害の宇田選手および視覚障害の米岡選手(ガイド樁選手)がそれぞれ銀メダルと銅メダルを獲得したことは、同じ競技に携わるものとして、望外の喜びであった。

パラリンピック出場を狙う強化選手育成は大切である。しかし、障がいのあるより多くの方々が、スポーツに触れ合う場を提供していくこともそれ以上に大切である。横浜ラポールを拠点にパラトライアスロンの普及活動に微力ながら貢献できればと思っている。



チリ選手団専属アシスタント 横川 信子

「選手団専属アシスタント」としてボランティアに参加しました。コロナ前まで私自身がチリに赴任していたご縁もあり、パラリンピックの担当国は「チリ」。選手村での生活全般をサポートすると共に、会議等での通訳や競技会場へも毎日同行しました。

早めに到着した幹部と選手村の一室に事務所を立上げ、部屋割りや備品を準備し、選手を迎えました。団長会議の内容、毎日更新されるスケジュール(シャトルバス・競技時間等)を確認します。

また、選手村内外への買い物の依頼、洗濯物やスマホ等の紛失など・・・日常生活をフォローしました。

競技会場では、選手が最高のパフォーマンスを出せるようチーム一丸となってサポートします。コロナ禍での動線の確認や場内アナウンス等取りこぼしのないよう注意を図り、そして一緒に応援しました。

パラリンピックには 19 名の選手が出場し、世界新記録 1 個を含む計 6 個のメダルを獲得。歴史的瞬間を見守る機会もあり、貴重な経験をさせて頂きました。



東京都の新型コロナ感染者数が、4日連続で1,000人を超えたと報じられた7月23日に東京2020オリンピックは開会式を迎えました。本当にオリンピックが開催されるのか？コロナ禍での開催に対しては賛否両論が渦巻く中、この日を迎えるまで正直不安な気持ちはありましたが、私は「やると決まったら全力でお手伝いしよう」と心に決めていました。



オリンピックで私が担った役割は、江の島のセーリング会場での”会場マネジメント”、パラリンピックでは国立競技場の陸上競技会場での”テクノロジー”でした。どちらも普段では体験できない世界最大のスポーツ大会の裏側を見ることができ、トップアスリートたちの呼吸も感じられる場所にいることだけでも非日常的な体験をすることができました。

無観客開催は非常に残念でしたが、私にとっては人生の貴重な体験に留まらず、今後のボランティア活動へのモチベーションを高めてくれる有意義な経験となりました。

会員の活動・体験コーナー

【11月14日(日)スポーツフェスタ「フライングディスクの日」於：横浜ラポール】 会員 牧村 佳代子

コロナ禍によるイベント中止が相次ぐ中、私にとって待ち望んだBASEL登録後初の活動となりました。担当したディスタンス(遠くに投げる)では、抗打ちのコツ、公式でのディスク渡し、そして投げ方までも皆さん優しく丁寧に教えてくれました。おかげで簡単に見えて難しいという競技の奥深さも知りました。スタッフ同士「1投目～」の合図に「1投目～」と返し、拍手したりディスクキャッチしたり、遠くても一体感のある場を楽しみました。小さな成功体験や微笑ましいシーンにもたくさん出会え、立場や経験、年齢を超えた笑顔の連鎖の中でほっこりと心が和みました。

BASEL ボランティアは出来る事を自分のペースで自主的に取り組め、初めてでも自然に仲間入りできる雰囲気が素晴らしいと感じます。今後のラポールでの定期練習で、一人でも多くの方が繋がりが合い、次回また一緒に参加できたら良いなと思います。



会員 江島 大佑

昨年、障がい者スポーツ指導者研修(初級)を受講し、BASEL会員として様々な取り組みに参加する予定でした。しかし、コロナ禍で丸一年延期となり今回のイベント実施も危ぶまれましたが、感染対策を徹底し実施されました。私は、パラ水泳のイベントは経験がありますが、他の競技は初めての参加でしたので一抹の不安がありましたが、ラポール職員・フライングディスク協会の方々・経験豊富なBASEL会員の皆様に教えていただきなんとか対応できました。様々な障害のある参加者にどうすれば楽しんでもらえるか、どうすれば快適に実施できるかを考えながらディスクの配置、参加者への呼び込み等をしていました。参加された方々は皆とても楽しんでいましたし、親御様もお子様の成長に大変満足されていました。改めて実施できて良かったと思うと同時に人気ブースは拡張するなど、より楽しんでいただけるような工夫をとっていました。

【11月21日(日)インクルーシブスポーツフェスタ 2021 於;三ツ沢公園補助陸上競技場】

会員 平山 和幸



陸上競技用車いす(車いすレーサー)の実走体験コーナーの運営スタッフとして、バセル会員 5 名で参加しました。本会は横浜市スポーツ協会主催のもと、昨年へ続く第 2 回目のイベントとなり、障がい者フライングディスク、モルック、タンデムバイクなどの体験コーナーをスタンプラリーで巡る形式により行われ、昨年の 2 倍以上、約 300 名の来場者で大盛況となりました。開催前に、私達 5 名で車両知識、乗降方法、安全対策などについて実車に基づいたミーティングを行った他、適宜、補助走を行ったりしてトラブル・けが・事故なく終えることができました。

『年齢、性別、国籍、障がいの有無を問わずスポーツを楽しむ』というインクルーシブ・スポーツの普及・振興に、これからも携わっていきたいと思います。

こんな活動をしました

【ごちゃませスポーツの日】

会員 出口 寛子

ブリジストンが横浜工場の体育館を活用して「障害の有無にかかわらず“ごちゃませ”でワイワイガヤガヤ楽しめる場」を目的とし、地域の人と共に創るイベントを10月～12月に3回行いました。

参加された方は、老若男女、障害の有無に関係なく、車いすテニス、卓球バレー、ボッチャ、モルックを楽しんでいました。私はボッチャを担当しました。そして、後半は参加者と共に全員で今後につなげるための座談会をしました。参加された方全員が楽しそうにしている姿を見て、今後もこのようなイベントが続くと良いなと思いました。



モルック体験

【ボッチャ体験 学校】

広報

横浜市内の小学校から多くの依頼を受け、ボッチャ体験を実施しました。学校側の評判も良く、引き続き活動していけたらと思います。

お知らせコーナー

【 文部科学大臣表彰の受賞 】

当協議会は「令和3年度生涯スポーツ優良団体表彰」に神奈川県から推薦され、令和3年10月11日に受賞しました。会長の新年の挨拶にもありましたように、これもひとえに会員の皆様のたゆまぬ活動によるものであり、心より感謝申し上げます。



【 2021年度第2回研修会中止のお知らせ 】

3月6日(日)の研修会は「障害児者スポーツ支援のための介助方法(リフティングとトランスファー)」をテーマとして行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が依然猛威を振るい、感染者が激増している中、実施することは難しいと判断しました。予定していた内容については、次年度以降の研修で行う予定です。ご理解のほどよろしく願いいたします。

【 2022年度総会および第1回研修会 】

2022年度総会を6月19日(日)横浜ラポールに於いて開催します。第1回研修会も開催予定です。研修内容等詳細は、後日改めてお知らせします。

【 ボランティア募集 】

2022年度の年間スポーツカレンダー、ボランティア募集を同封しました。
前期申し込み締め切りは、2月28日です。皆様のご参加お待ちしております。

【 バセルポロシャツ頒布販売について 】

バセル活動の時に着用していただく(必須ではありません)
ポロシャツの頒布販売を行います。詳細は同封の別紙をご覧ください。



【 メールアドレス登録の件 】

会員の皆様にラポール、地域から寄せられるボランティアの依頼、情報などをメールで配信しています。情報配信を希望される方は QR コードを携帯、スマートフォンなどで読み取るか、下記のアドレスよりお名前、会員番号を入力し返信してください。既に登録済の方は、必要はありません。

Mail(basel@basel-y.sakura.ne.jp)



【会員数 2021年12月31日現在 456名】